

## 税金とぼくたちの暮らし

厚沢部町立厚沢部中学校 三年 朝倉 煌士郎

「なんでこんなに税金を取られるの？」

ある日、働くお父さんが何気なくつぶやいた。家計簿をつけながらため息をつく母の様子も見て、ぼくは初めて「税金ってそんなに大変なものなのか」と思った。ニュースでは「消費税が上がるかもしれない」と言っていたし、スーパーでの買い物でも「なんと10%も取られるの？」と感じたことがある。そんなある日、社会の授業で「税金の役割」について学んだ。

そこには、税金によっていろいろなサービスが成り立っていると書かれていた。たとえば、ぼくたちが毎日通っている学校。教科書が無料で配られるのも、冷暖房が使えるのも、先生たちの給料が払われているのも、すべて税金のおかげだということを知った。さらに、給食費はかかっているけど、その食材の一部や調理員さんの人件費なども税金でまかなわれているらしい。ほかに、救急車や消防車がすぐに来てくれること、道路が整備されていること、公園がきれいに保たれていることも、実は税金のおかげだ。「税金って、ぼくたちの毎日の安全や学びを支えてくれているんだな」と思うようになった。誰もが平等に、安心して暮らせるように使われている税金。それは人としての基本的な権利――つまり、「人権」を守るためのものだということも分かった。

けれど一方で、家族の生活を見ると、税金の重さがのしかかっていることも実感する。給料から引かれる所得税や住民税、毎日の買い物消費税。電気代やガソリン代にもたくさん税金が含まれている。物価が上がっている今の時代、税金の負担が減ったら、もっと生活が楽になるのにと感じる。もちろん、税金が必要なのはわかっている。でも、たとえば消費税が10%から8%に下がるだけでも、食費や日用品の負担はずいぶん軽くなるはずだ。特に子育て世帯や年金で暮らす高齢者にとっては、ほんの少しの減税でも、大きな助けになると思う。ぼくは、税金を「なくしてほしい」とは思っていない。むしろ、税金があることで、ぼくたちの暮らしが守られていることをもっと多くの人に知ってほしい。ただ、生活が苦しくなってしまうほど税金が重くなってしまうのは、本末転倒ではないかと思うのだ。これから大人になって働くようになったら、ぼくも税金を払う立場になる。そのときに「税金は必要だけど、ちゃんと使われている」と信じられる社会であってほしい。そして、少しでもみんなが暮らしやすいように、使い方や金額のバランスを考えてくれる世の中であってほしい。税金は、ぼくたちの暮らしを支える大切な仕組み。でも、そこに「思いやり」や「助け合い」の気持ちがもっと込められたら、もっと人にやさしい社会になるんじゃないかと、ぼくは思っている。